

# 新 生

令和二年十二月二十日印刷  
令和二年十二月二十日発行



東北新生園入所者自治会

新生第七十二巻 第四号

新 生

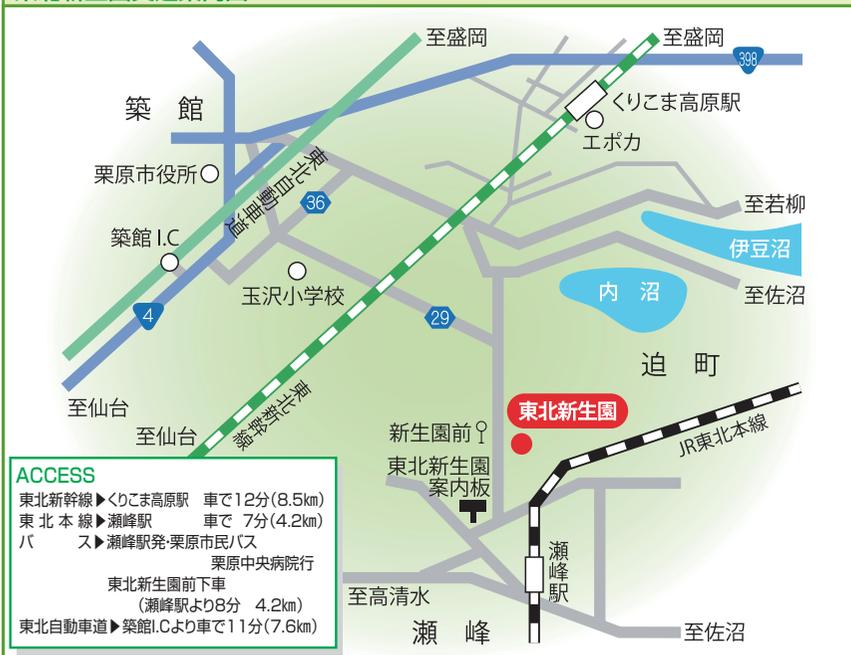
令和二年十二月二十日印刷  
令和二年十二月二十日発行

第七十二巻 第四号

## 東北新生園の概況

所在地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地
土地面積	351,291㎡
建物延面積	25,280㎡
開園	昭和14年10月27日
医療法承認病床	244床
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科
現在入所者数	男16名 女31名 計47名
職員定員数	142名(令和2年4月1日現在)
園長	医学博士 横田 隆

## 東北新生園交通案内図







新生・第七十二卷第四号……………目次

表紙…「秋の風景（紅葉）」

新生園の渡り鳥の話……………	福祉室長…佐藤吉浩…(2)
思い出……………	車庫長…星浩…(4)
もう六十、いやまだ六十！……………	洗濯長…木川田憲浩…(6)

|| 新生文芸 ||

詩……………	選者…佐々木洋一…(7)
短歌……………	選者…皆川二郎…(10)
俳句……………	選者…山田桃晃…(12)
川柳……………	選者…栗石隆子…(14)
栄養だより……………	栄養班…(16)
ヘアドネーション〜髪を寄付する〜……………	
医療社会事業専門職……………	瀬川将広…(18)
思い出と感謝……………	看護助手…佐藤吉治…(25)
定年退職を迎えて……………	看護助手…木川田富喜子…(26)
四コマ漫画「うさぎの休日」……………	堀江由美…(28)
園内日誌・謝寄贈図書……………	

# 新生園の渡り鳥の話

福祉室長 佐藤 吉浩

今年も渡り鳥の季節がやってきました。

ここ新生園は、マガンの日本最大の越冬地である伊豆沼、内沼、蕪栗沼に囲まれた地にあります。毎朝日の出とともに始まる飛び立ち、日の入りとともに帰入りする群れが園の上空を飛び越えて行きます。平成二十七年園に赴任して半年、賑やかな鳥の声で起こされることとなるとは思いも寄らなかつた九月の朝、これが有名なマガンの帰立ちかと、改めてここは全国一のマガンの越冬地、伊豆沼エリアだったと再認識しました。

秋の空を飛び交うマガンの群れ、残念ながら、警戒心の強いマガンは園には降り立ちませんが、代わりに十一月になるとハクチョウ

がやってくることに気づきました。その数、四十羽弱、南の睡蓮の池にやってきます。入所者さんのお話では以前は睦ヶ池にも多くのハクチョウが飛来していたとのこと、資料館でその頃の写真を見ることが出来ます。

新生園に来て、マガンやハクチョウを身近で見ることが出来るようになり、渡り鳥ウオッチが新しい趣味となりました。

睡蓮の池、ここは小さいながらもオオハクチョウ、おなじみのアオサギ、カワウ、オナガガモ、マガモ、白塗りの顔が特徴のオオバン、パンダ顔のミコアイサ、キンクロハジロにホシハジロ、と種類も多く退屈しません。昼休みにのんびりと鳥達を眺めながら、おにぎりをほおばり過ごすのが日課となりました。新生園周辺は最近雪が少なくほとんど積もりませんが、それでも十二月一月は寒さ厳しく池も氷が張ります。ただ不思議なことに睦ヶ池は全面氷結しても小さな睡蓮の池は全面氷結せず、半分は水面が残り狭い水面でハクチョウが羽を休め、時に逆立ち状態で水中の蓮の

根を食べるといふ光景が見られました。

ハクチョウは十一月には二家族八羽位のところが、十二月には二十数羽と増加、一月には四十羽前後まで増えにぎやかになります。

ハクチョウは帰りを決めると朝は十時頃に出勤して近くの田んぼで食事、十五時頃には帰りに帰る生活をしています。当直の巡回時に池にいるグループが帰ったグループです。

増減はありますがなじみのつがい家族（判りません）中心にこのような傾向のようです。

一月には伊豆沼のマガンやハクチョウも急激に数を増やすのは、よそで越冬していた群れが北に帰る前に伊豆沼に集合するため？その数十数万羽は国内越冬組の約七十%とか。

二月になると最初にマガンの北帰行が始まります。マガンは奥羽山脈を越え秋田県の八郎潟残存湖で休憩、その後北海道の宮島沼を次の中継地として北上、千島列島からサハリンへ抜け営巣地のロシア極東地域に帰る距離四千キロ。ハクチョウは少し遅れて二月末にこの地を出発、四号線沿いに北上、三月中は

盛岡近郊で羽を休め、四月に北海道宮島沼を経由し樺太から北シベリヤに帰るようです。

新生園のハクチョウの旅立ちは二月下旬、伊豆沼より十日間程度遅れて始まります。睡蓮の池を帰りにしている家族が、日中睦ヶ池で休み始めるのが最初の兆候です。この頃、新生園のハクチョウは昼の間睦ヶ池や福祉会館脇の緑地でひなたぼっこが約一週間、三月初旬のある日、鳴き交わしと羽ばたきが増えるある日、家族単位で飛び立ちそのまま北へ、あたりは一気に寂しくなっています。

悠久の時を超え、毎年繰り返されて来た渡り鳥ですが寂しいものです。

さて、マガン、ハクチョウが帰る三月は別れの季節、渡り鳥の移動距離には及びませんが、私もこの春渡りの旅を終える事となります。秋田の道川病院を皮切りに、東北六県を渡り三十年、最後に新生園で過ごした六年間は忘れられません。

皆様いつまでもお元気で、ありがとうございました。

# 思い出

車庫長 星 国浩

今年の三月に定年退職を迎えることになりました。昭和五十五年十一月に、賃金職員として福祉室自動車運転手兼作業手として採用されました。作業内容は何もかも初めてで戸惑いの毎日でした。園内のゴミ回収、焼却、草刈り、木の剪定、水源地の給水管、貯水管の掃除、U字溝入れ、作業返還（入所者の皆さんの作業を職員が担う）による採用のため入所者、諸先輩方によく指導していただきました。また、早出勤務があり、自転車での牛乳配達、給食棟からの車での配飯業務、雪が降ると二時間ほど早く来て、ジープでの除雪作業が大変であったことが思い出されます。

そして、新生園ではレクリエーション行事が多くあり、その当時入所者さんは、若くて元気で、職員との合同ソフトボール大会・運動会・ゲートボール大会などがあり、運動会などは入所者と職員の混成チームで団体競技が主で、皆さんで子供時代に戻り楽しんだことが思い出されます。その他には文化祭などの行事があり、写真の展示・入所者さん自身が育てた自慢の野菜・菊の花・盆栽などが品評会（園の中で）で表彰されたりしていました。見事な出来栄えに感動を覚えたことが思い出されます。菊・盆栽などは、高原駅、県庁などにも展示されたりしていました。

私は、平成二年には本採用になり、平成五年には本館の自動車運転手に配置換えになり、大型バスが主な仕事になり、大型バスの運転を車庫長に指導していただきながら、毎日練習したの思い出されます。最初のバスの運転業務は、不自由者旅行で気仙沼の岩井

崎方面でした。私は、緊張していることがさとりれないように平常心を心がけ、無事に新生園に帰園することだけを考えて運転していたように思われます。帰園して皆さんに「ご苦労さん」「ありがとう」と感謝の言葉をいただきました。運転手になってよかったですと思いました。その他にもたくさんの旅行があり、一般者・長生会・盆栽愛好会・菊香会の研修旅行などがあり、栃木の鹿沼、山形の南陽など一緒に見学しながら、いろいろな話を聞き勉強させていただいたことが思い出されます。

県人会旅行では、東北六県、関東方面、宿泊が多く、車庫長と交代での運転でありました。ほとんど行ったことのない所の観光地なので、地図をたよりに運転業務が多かったと思います。夜は懇親会で、昔話を聞きながらカラオケなどで楽しませていただきました。いつも旅行の帰りはバスの中がお土産でいっぱいになり、帰園してからの仕分けが大変で

あったように思われます。

また、秋のコスモスゲートボール大会には皇族の三笠宮妃殿下信子さまが、度々訪問された時は、送迎の運転を任せられたことが、今思えばいい思い出として残っております。

最後になりますが、入所者さんの皆様、職員の皆様、四十年の間、新生園で長きに亘りお世話になることが出来ました。皆様方と出会い、たくさんの思い出をいただいたことに本当に感謝しております。お身体を大切にお過ごし下さい。本当にありがとうございます。

# もう六十、いやまだ六十！

洗濯長 木川田 憲 浩

来年三月三十一日をもちまして定年退職を迎えることになりました。

昭和六十一年八月に新生園庶務班洗濯場に採用になり、それ以降三十五年間お世話になりました。私が入職した当時の洗濯場の仕事（現在も同じ）は入所者の皆様の衣類の洗濯・看護職員の白衣の洗濯・仕上げです。若造の私にとっては衣類を洗うということは、自宅でもした事のない初めての体験をさせていただきました。実際洗うのは洗濯機がやってくれますが、洗濯機に衣類を入れる時、これは色落ちするか、縮む素材なのか分からないことばかりで先輩方に迷惑をかけた事、職場長

になってからは衣類のトラブルで入所者の部屋までお詫びに行ったことなど思い出します。（申し訳ありませんでした）

現在、洗濯場は平成二十八年に新しい建物に移り機械類も揃えて頂き、入所者の皆様職員の皆様の御希望に沿うことが出来たと思っております。もちろん職場の同僚の皆様の協力もあつてのことだと思っております。

そして私（職場長）を長年支えて下さり重ねてお礼申し上げます。もう六十、いやまだまだ六十という気持ちで、これから何事にも頑張っていきたいと思っております。

とりとめのない拙い文章になりましたが、最後に入所者の皆様、職員の皆様これからお身体を大切に、元氣にお過ごされるよう心からお祈り申し上げます。

ありがとうございました。

## 新生文芸

### 詩

佐々木 洋 一 選

#### ◇ 入 選 ◇

《園長先生始め先生方ありがとう》

齋 藤 照 雄

園長先生始め先生方が

私の事を心配して

私ที่บ้านに十日程、帰って来ると

「君、照雄君、残りの八の菌の検査をしましょう」と

言われた

私ら不自由な方は  
十八回が規定だ  
軽い人は一回でパスし  
退院して行った  
十八回連続無菌になった

するとドクターが

「君、照雄君、今度園長先生始め

外科二人、眼科一人、内科は僕

計五人の先生で

君の事を診察したいから

何月何日午前九時頃までに

検査室に来て下さい。」と

言われた。

その日を待って検査室前に行った  
既に園長先生始め先生方が  
待機しておられた

私は「おはようございます」と  
言って入ると

「おはようございます」と  
言って安定した椅子を  
用意して下さった。

そこに座ると、間もなく

「君」と言って

「すまないが、両手両足を  
見せてくれないか」と。

私の両手両足を見ていた先生方が

「君、この手足で郷里へ

帰って働くのは大変だろう」

「働かなくても何か

良い事があるんですか？（笑）」

「そんなに働きたかったら

ここに東北農場社会復帰研究所

という所があるが  
そこで働いてみてはどうか？」

いや園長先生始め先生方  
私はそんなつもりで  
菌の検査をしたつもりは  
ありません。

私は寮友が

この八氏病の方の病気が  
菌の検査をしないと

治ったか分からないので

検査したのです。

「ああそうか、そうだったのか」

私はここで

園長先生始め先生方にお詫びを  
しなくちゃなりません。

この菌の検査には  
社会復帰と書かれていたし

その頃沢山の退院者が出たし

なぜ菌の検査をしたかと

色々と説明しなくては

ならなくなつて

園長先生始め先生方に

誤解を招かせてしまった

「どうぞお許し下さい」

いやあ君に先に

詫びらせてしまったが

僕らの方こそ、率先して

菌の検査をしなければ

ならなかったのに

遅れてしまったし

君の事が心配になり

先生方と相談し

色々な事を言ってしまったので  
謝ります。

「いやとんでもないです

私の方こそすみません」と

この件は一見落着いた。

## 【選評】

《園長先生始め先生方ありがとう》

斎藤 照雄

検査に対する作者の考えと先生方の思いにずれ  
があつた過程が、独特な語り口で明かされていて  
興味深い。

温和な人間性が見えてくる味のある作品となつ  
ています。

# 短歌

皆川二郎選

## ◇入選◇

今野 きよし

重い物持ちて自慢をするなよと腰痛抱えししみじみ思う

### 【選評】

作者もこのような経験があるの  
であろう。自慢をして無理に重い  
物を持ち、腰を痛めたことをしみ  
じみ思い出している。また、その  
ことを自分自身に言い聞かせてい  
ると同時に語りかけているのであ

今野 きよし

良き事の少なき妻は妹の生活案じ日々を過ごせり

### 【選評】

今は、新型コロナウイルスの感  
染拡大や経済不況、自然災害の大  
型化など人間にとって乗り越えな  
ければならない厳しい時代である  
から、妹を思う妻の気持ちがある  
にもひしひしと伝わってくるので  
ある。またそれを見つめる作者  
があり、その思いやりの気持ちが  
読者にも素直に伝わってくる。

る。下句に思いが集中し一首を引  
き締めている。経験したことのある  
者にとっては痛いほど実感でき  
る。

菊地 尚樹

四歳と二歳の戦い日が暮れてちぎれた電車  
砂場に残る

### 【選評】

砂場で四歳と二歳の子供がおも  
ちやの電車を使って夢中で競争し  
ていた。いつの間にか日が暮れて  
ちぎれてしまった電車が砂場に  
残っている。作者はそれをやさし  
いまなざしでじっと見ていたので  
ある。その情景が読む人の心に  
残されていく。短い限られた文字  
数であっても上手に焦点を絞って  
表現されているからである。

## ◇佳作◇

今野 きよし

とんとんと一心不乱に啄木鳥が老木突  
くを窓に見つめぬ

昼食の南瓜二品の献立にふしぎに思い  
故事を調べる

のぞき見と称して友の訪ね来て近況聞  
かせそつと去りゆく

「薰さん」ふくよかな話いつまでも続け  
て欲しい心ぬくもる

菊地 尚樹

古井戸とさくらの古木この地にてどん  
な歴史を見たのだろうか

この赤は絶対僕のものなのです「こま  
ち」を描く赤いクレヨン



俳句

山田桃晃選

◇ 入 選 ◇

どこからか秋の山唄ろうろうと  
齋藤 照雄

【選 評】

どこからは他聞歌手を知っているのだろう。秋の山唄は東北民謡大会で優賞された熊谷一夫さん。ろうろうと平仮名で書いた迫力が身に染みる滑らかさ、紅花の彩が見えてくる。

◇ 佳 作 ◇

今野 きよし

色づきし早生種の稲穂艶やかに  
見学者姿は見えずいわし雲  
空見たと云われて見入る秋の虹  
うつむいて誰に話そう萩の花

齋藤 照雄

ワークラとおてて繋いでキャンプの火  
木枯しや人影もなし望鏡台  
赤とんぼどちらの応援職患対抗

竜 清

渡り鳥コロナ知らずで密になり



隅刈りの足跡乾き稲を刈る  
今野 きよし

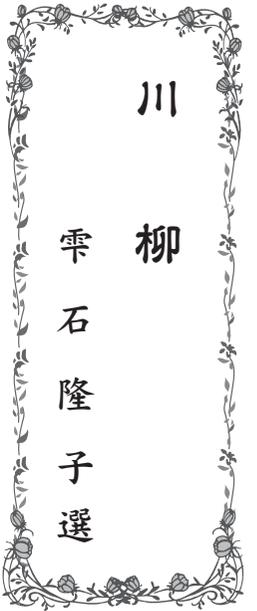
【選 評】

隅刈りとはコンバインで刈るために端し端を手刈りした足跡が乾いてゆく時間のバランス、稲の穂波の豊かさと香り晴れ渡った空をそぞろに吹く風は稔の秋にふさわしい豊作の喜びがある。

靈安堂に行く道々の曼珠沙華  
齋藤 照雄

【選 評】

靈安堂と彼岸花はあまりにも付き過ぎ、同じ花に入れ替えて行く道々の一茎に一花のあざやかさが御堂へ曲がりくねった径を通り過ぎ靈安らかに祈る姿が見えてくる。



川柳

雫石隆子選

◇ 入 選 ◇

《人位》

長沼蓮花

初冬へと心も一緒に衣替え

【選 評】

コロナ禍に翻弄された令和二年。早くも年末を迎えようとしています。いつもと違う特別な年として、心を引き締めて一年を送ろうとする気構えが見えます。

《地位》

千

歩

雨風に負けぬ新米噛みしめる

【選 評】

実りの秋。日本人として新米をいただくことは、楽しみであり、喜びの季節です。特に温暖化という地球規模の異常気象は、米作りにも影響を与えています。災害に耐えた稲たち、農家にも感謝です！

《天位》

斎藤照雄

荒波に泣いたあの日の八氏病船

【選 評】

荒波を漕いできたような人生。時には多くの偏見に揺さぶられ、涙したこともあったでしょう。誰もが書ける一句ではなく、乗り越えてきた作者だからの秀句です。

◇ 佳 作 ◇

大平尚拓

鏡見て皺のよる顔老い始め  
窓辺にて残るは巢のみ旅立ちよ  
蜘蛛のいえ破らぬようにそっとよけ

長沼蓮花

増税前買いし一箱見当たらず  
コロナ禍に会えぬ寂しさ病ます  
無花果の甘みに祖母を想い出し

斎藤照雄

八氏病を励まし合った療友が亡く  
縄のれん分けた昔が懐かしい  
令和二年コロナに負けず八氏病か

千

歩

どんぐりを土産に拾う散歩道

あられたの祖母のアンテナ感度良し  
じんわりと妻の毒舌効いてくる

今野きよし

うますぎる話の裏に種がある  
どうしても殖えるだけだよ錆の数  
ああ良かった今日一日の付き添い婦

## 東北新生園の梅で梅ゼリーをつくりました!



梅の実



収穫した梅の実



洗って水切り



へたを取る



乾燥させる



砂糖で漬ける



砂糖が溶けてきた



梅を取り出し



網で漉す



火にかけてアクを取る



瓶で熟成



梅ゼリーとカードを提供しました

## 「栄養だより」

新生園の梅でゼリーをつくりました!

今年度、栄養班では新しい取り組みを始めました。それは、園内で収穫した山菜や果実を入所者の皆様に食べていただく「園産園消」です。(「地産地消」をちょっと変えました。)

その取り組みのひとつとして、今回は「梅ゼリー」にチャレンジしました。

まず、新生園で実る梅を収穫し、砂糖漬けにしてシロップをとり、ゼリーにして皆様にデザートとして食べていただきました。フルフルとしたゼリーの上に生クリームを絞りましたので、さっぱりとしつつもコクがあり「とっても美味しい!」「売ってるゼリーより美味しい!」と皆様に喜んでいただけました。

新生園の果樹には持ち主が決まっているものが多く、今回は自治会の梅の木から、会長さんの了承を得て、実を収穫いたしました。

皆様は梅の収穫をしたことがありますか? たわわに実った梅の木を長い棒でたたき、実を落として収穫します。1本の木から11kgの梅が収穫できました。洗って1個ずつ「へた」を取り、砂糖に漬けます。砂糖が溶けると梅のジュースが出て来ます。こうして出来た梅シロップは、美味しいだけでなく、体に良い働きがいろいろあります。血液サラサラ、疲労回復、食欲増進、胃腸の調子を整える、冷え性改善などです。

発酵しないように熟成しつつ、何度もゼリーの試作を重ねました。そして最終的に「アガー」という海藻から出来たゼリーの素を使用し、梅の風味を生かした、つるりと食べやすいゼリーを完成することができました。

今回、皆様に「新生園の梅で作ったゼリーです」とお伝えしたところ「昔は自分たちで梅干しを漬けた」「寮の前に梅の木を植えた」等々、たくさんのお話を聞かせていただきました。今回の取り組みが、皆様にとって、昔を思い出しつつ、今の生活に彩りを添える1つのきっかけになればと思います。

今回のチャレンジには、たくさんの方々にご協力いただきました。本当にありがとうございました。新生園の豊かな土地の恵みの味を皆様にお届けすることができたことに心から感謝しています。

これからも入所者の皆様に喜んでいただけるよう、安心・安全で美味しく楽しいお食事を提供していけるよう努力して参ります。

今日の梅ゼリーは、新生園の梅のジュースでつくりました。園の恵みの味をご賞味ください。  
東北新生園 栄養班

## ヘアドネーション 髪を寄付する

医療社会事業専門職 瀬川将広

一年半ほど前の話なのですが、ヘアドネーションいたしました。



きっかけは二〇一六年、新生園内でエネルギー棟建設工事が行われており、車両誘導や交通整理の係の女性がいました。とても気さくで入所者の皆さんとも明るく会話をしてくださり、また、ハンセン病について多くのことを知りたいと、仕事が休みの日に施設見学を申し込んでくださるなどしてくれた方でしたので、いろいろ雑談も含めて話をさせていただくことができました。

ある夏の日、今までヘルメットの下に結ばれていたお団子髪が切られていることに気がつきました。猛暑だったこともあって「髪切られたんですね。夏は暑いですよね」というような事を言ったと思うのですが、その答えは「娘と一緒にヘアドネーションしたんですよ」というものでした。

ヘアドネーションという初めて聞く言葉に「なんですかそれは」と問い返すと、抗がん剤治療や脱毛症などで髪を失った子ども達に、医療用かつらを無償で提供するボランティアです。

周囲の人にヘアドネーションについて知っているか聞いてみたところ、意外と知っている人は多く、「友人が寄付しましたよ」という女性も数人いました。

この頃、私の髪は横と後ろを刈り上げて上を伸ばしているツーブロックで、上の髪が耳を隠すくらいまでの長さになっていました。猛暑でそろそろ切ろうかと思っていたところでしたが、せっかくなら寄付してみようかと思いを伸ばす決意をしました。

しかし、流石に男性職員が肩より長く髪を伸ばすことに批判がないとはいえませんし、私自身の立場だったら、他の男性職員が長髪だったらどう思うだろうかと考えると若干の躊躇はありました。

自分から積極的に公言することはせずに髪を伸ばし始め、なぜ伸ばしているのか聞かれたらヘアドネーションについて答えることに

ヘア活動を行なっている団体に髪の毛を寄付したとのことでした。

医療用のかつらは私も福祉や医療の現場で働いていますから知っていました。

病院のエレベーター内やロビーで、大人用既製品広告が貼られているのを目にしたこともあります。

しかし、成長期の子どもの用のかつらは既製品ではサイズ展開が少なく化繊製のものは見ただ目も不自然で、サイズを合わせるためにはオーダーかセミオーダーになり、人毛を使つたものとなると費用も何十万円となってしまふという話は、この時初めて知りました。

思い起こせば小学生の頃、母が小樽市立病院の小児病棟で行われている朗読ボランティアに参加していて、よく一緒に付いて行っていました。私自身は内容もよくわからず一緒に楽しんでいただけですが、今思えば髪がなくなっている子供達が多くいたのを思い出しました。そのことを母に尋ねると、抗がん剤

して、職場から長髪をやめるように指示されたら、そのときは切るつもりで始めました。ここでヘアドネーションについてNPO法人JHD&C（ジャーダック）のホームページなどを参照してお伝えしたいと思います。今回私はこちらの団体に髪を送らせていただきます。

ヘアドネーションとは文字通りヘア「髪」ドネーション「寄付」することで、アメリカで始まった活動です。

メデイカルウィッグの素材として適した髪の毛は「三十一センチ以上の長さがあること」「カラー、パーマ、ブリーチヘアでも大丈夫」「完全に乾いていること」の条件を満たしていることが大切です。特に三番目の「完全に乾いていること」とは、濡れた状態で切つて郵送するとカビの原因となつてしまい廃棄せざるをえないからとのことでした。美容室でカットする前にシャンプーをするかと思いますが、ヘアドネーションの際にはまずカット

してからシャンプーをして下さい。また、ヘアカラーやパーマなども「手で触つて崩れてしまうほど痛んでいれば難しいが、そうでなければ大丈夫」とのこと。意外と門戸が広いと感じました。

三十一センチという基準は日本人からすると中途半端な長さに感じますが、十二インチをセンチに直すと約三十一センチなのだから。三十一センチ以上の髪をメッシュ状のウィッグネットに半分ほどの長さで折り返して植毛していくので、実際の長さは十五センチくらいになります。ここからカットして整えるので三十一センチの髪を寄付しても実際にはもつと短くなつてしまいます。三十一センチから五十センチまでは医療用のフルウィッグ、五十センチ以上あるとロングヘアのウィッグ用に出来るそうです。女の子の場合は長い髪を希望することが多いため、五十センチ以上で手入れのされた長い髪の寄付は貴重とのこと。

話は戻つて、翌二〇一七年春四月には髪が顎を超える長さとなつてきて、流石に食事の邪魔になりはじめました。特に麺類を食べようとすると、どうしても髪が器に入りそうになります。整髪料で整えるのも限界に近づき、髪を縛ることにしました。

季節は過ぎだんだんと髪も長くなり馬の尾のように縛れるようになってくると、流石に「どこまで伸ばすの?」と聞かれるようになってきました。そこで「実はヘアドネーションと違って、髪を失つた子ども達に医療用ウィッグを作るボランティアに髪を寄付するために伸ばしているんです」と伝えると共感してくださる方が多かつたように（勝手に）思っています。

ちょうどこの頃だつたと思いますが、河北新報という宮城県の新聞に、仙台市の小学六年生の男子がヘアドネーションのために小四の時から髪を伸ばしはじめ、卒業と同時に髪を切り寄付するという記事が掲載されまし

た。

また「七歳男子が『髪を伸ばしたい!』決意守つた二年半」という、少年が髪を伸ばして寄付をしたいという決意を持つてから、寄付に至るまでの記事がネットニュースに流れているのが目に飛び込むようになってきました。また検索すると髪が長かつた女性タレントが髪を切つたのは、実はヘアドネーションだけでした。僕の目に入つていなかっただけで、多くの方々がヘアドネーションに賛同して髪の寄付を行なつていたことを知りました。

二〇一七年冬、友人が癌になつたと知らされました。現在は抗がん剤治療で日常生活が送れるまでに回復しましたが、闘病生活中は副作用での脱毛などもあり大変だつたそうです。同年十一月に高校時代の同級生が白血病で亡くなつたとの知らせを受けました。

この二人の話を聞く中で、必ず寄付できる長さまで伸ばしてから切ろうという気持ち

強くなりました。そして自分にできるボランティア活動をはじめようとしたのもこの時期です。

二〇一八年秋にはすでに根元から測ると長いところで四十センチほどになっていましたが、まだ短いところでは三十センチほどでしたのでもう少し長さが必要でした。

毎朝目覚めると髪の毛が顔にかかって鬱陶しかったり、洗髪後に乾かすのが大変だったりしましたが、だんだん長い髪の状態に馴染んでいる自分があり、特に冬場は首元が暖かいので切るのをためらっている自分がありました。園内の行事や施設見学の対応をするときは後頭部で団子にしてまとめておりましたが、もし自分が逆の立場だったら違和感を持つただろうと思います。もし団子状の私に会ったことがある方で、この文章を読んで下さっておりましたら、このような理由でしたのでご理解くださいますようお願い致します。



そして二〇一九年三月、三年間伸ばしてきた髪を切りました。



いつもだとカット前にシャンプーをしますが、ヘアドネーションする場合は濡らしません。運送中にカビが生える原因になってしまうからです。そして小分けにゴムできつく結び、根元付近からカットします。あとは解けないようにしっかりと束ねて、ドナー情報を記載した髪を同封して郵送するだけです。

一つだけ後悔があるとすれば、伸ばし始めた時点でツーブロックだったため、刈り上げた部分を伸ばせずに提供できる毛量が少なかったことです。

職場でもヘアドネーションのために伸ばしていたと知らない方も多く、「心境の変化かい？」や「イメチェン？」と聞かれました。その際にはヘアドネーションのことを説明させて頂いていただきました。

成人式で髪を結うために伸ばしていた方が、式終了後にカットして寄付することもあるそうです。もし長い髪を切ろうと思っている方や知人に該当しそうな人がいる方は、ぜひへ

アドネーションについて教えてあげていただきたいです。

私は工事に来ていた女性の言葉をきっかけに始め、そして友人がガンになったことで活動を継続しようと伸ばし続けました。まずは自分自身が多くのことを積極的に学ぶこと、そして多くの人に伝えることで知っていただくきつかけになればと思いい投稿致しました。

私が知る限り、日本国内でフルウィッグの提供を行なっている団体は「JHD&C」さんと「HERO」さんの二団体です。私が寄付した頃と基準が変わっていることもあるかと思えますので、もし興味を持って下さった方がいらつしやいましたら、HPでお調べになった上で自分の髪が寄付可能かどうかご確認下さい。



## 思い出と感謝

看護助手 佐藤 吉治

この度、令和三年三月三十一日で定年退職を迎えることになりました。新生園との出会いは、私がまだ小学生の頃です。近場だったので、自転車で友人達といつも遊びに来ていました。正門を入ると右側に郵便局があり、並びにテニスコート、野球グラウンドでは夕方まで遊んでました。睦ヶ池で釣りをしたり、旧売店脇のロータリーにあった猿小屋を見に来てました。猿にイタズラをして、入所者の方に怒られた事もありました。いつも遊び場でした。もう五十年前も前の話です。そんなやんちゃだった私が、ご縁があり働かせてもらったのは、昭和五十九年十一月に本館所属の保清夫でした。本館周辺、白萩荘、官舎等

の環境整備と、当時、解剖棟の脇にあったプレハブ（大使館）に入居していた入居者の方の見回りのお世話をしていた、食事配膳時に病棟に入室していた入所者様に「大使館勤務頑張れよ」とよく励まされていました。平成五年に福祉室作業手に配属になり、平成十五年に看護課介護員として配属になりました。いろんな思い出がありますが、文章にして書くとなると難しいです。貴重な経験、新生園ならではの体験をさせていただきました。新生園に就職して三十六年五ヶ月続けて来れたのは、入所者の皆様、先輩の方々、スタッフの皆様ののおかげで、何とか定年を迎える事が出来ました。とても感謝しております。

文末になりますが、入所者の皆様、健やかで笑顔あふれる日々をお過ごし下さい。職員の皆様、お身体を大切に過ごして下さい。長い間大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

## 定年退職を迎えて

看護助手 木川田 富喜子

この度、三月三十一日をもちまして定年退職を迎える事となりました。

七、八年前まで先輩達に「わげすたず」と呼ばれていたような気がします。五十を過ぎて「わげすたず」ですか？と思っていました。が、今、私もその歳の方々を見ると若者だと思いません。そう言っていた先輩達も次々と退職され、今度は私が退職を迎える事になりました。

平成五年に病休代替で新生園に看護助手としてお世話になり、二十七年が過ぎました。手入れの行き届いた園内の美しい景色に驚いたものでした。

園内の行事も運動会・盆踊り・カラオケ大

く靴の音で「今〇〇さんが通ったな」と見事に名前を当てる盲人の方もいました。スタツフの声や雰囲気の微妙な変化を察する鋭い感情、全てを見透かされているような気がしたこともありました。不自由な方が自分で生活ができるように様々な工夫をしている姿に今更ながら頭が下がります。入所者の方々には、多くの事を学ばせて頂き感謝の気持ちでいっぱいです。

入職当時、高原駅の近くを長女と長男の手を引き背中に次女を背負い散歩中、入所者の方の運転する車とすれ違いました。翌日職場で「昨日、子供達連れて散歩していたな」と声をかけて頂き嬉しかったです。その方々が今も元気に過ごされていることを喜ばしく思います。月日が経つのも早いもので、当時背負っていた次女も今では、一児の母になりました。九人家族の生活、子育てと仕事、無我夢中で過ごして来ました。気づけば還暦を迎え、身体のうちこちに年相応のガタつきが出

会・ゲートボール大会・文化祭等があり、入所者の方々が元気に参加されていました。額から汗を流し、笑顔で畑仕事をされていた入所者の方々の姿を懐かしく思い出します。当時の不自由者棟では、土日、夜間は、看護師さんは勤務していませんでした。当直は看護助手二名で行い、軽い外科処置や坐薬挿入、点眼、保護眼帯付け、パウチ交換、インスリン注射の見守り等も行っていました。先輩達の手際の良さや細やかな気配りに感心したものでした。私にとっては、全てが初めてのことで先輩達に沢山の指導を頂き、メモを取り子供達を寝かしつけてから、そのメモを見直すことが毎日の日課でした。

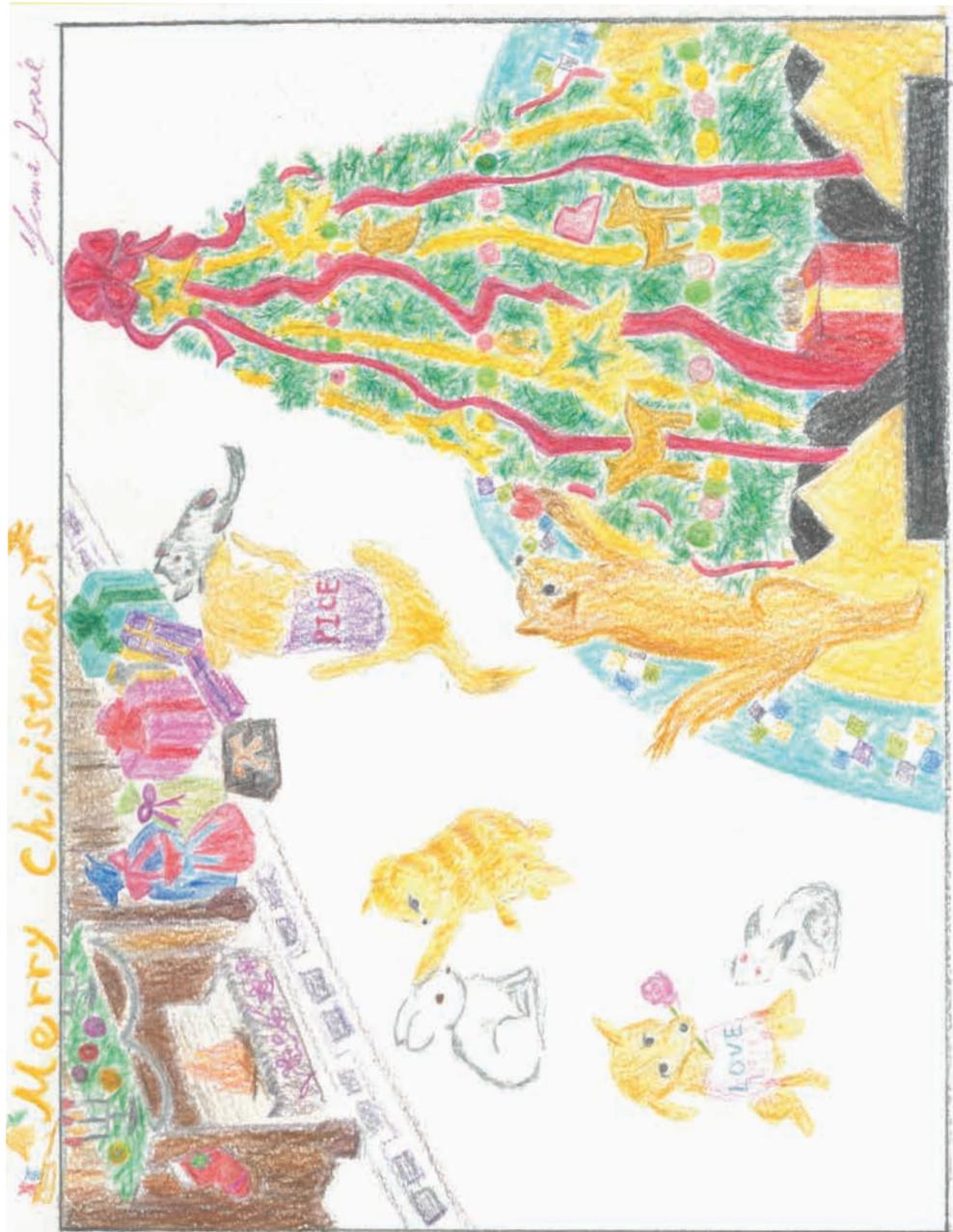
治療棟も賑やかで多くの方々の元気な声が聞こえていました。廊下も白杖を左右に動かして盲人の方々が歩き、自然に誰かが歩行介助をしていました。「おはようございます」と挨拶をすると「おはよう〇〇さんだね」と答えて下さる盲人のKさん。居室前の廊下を歩

てきました。

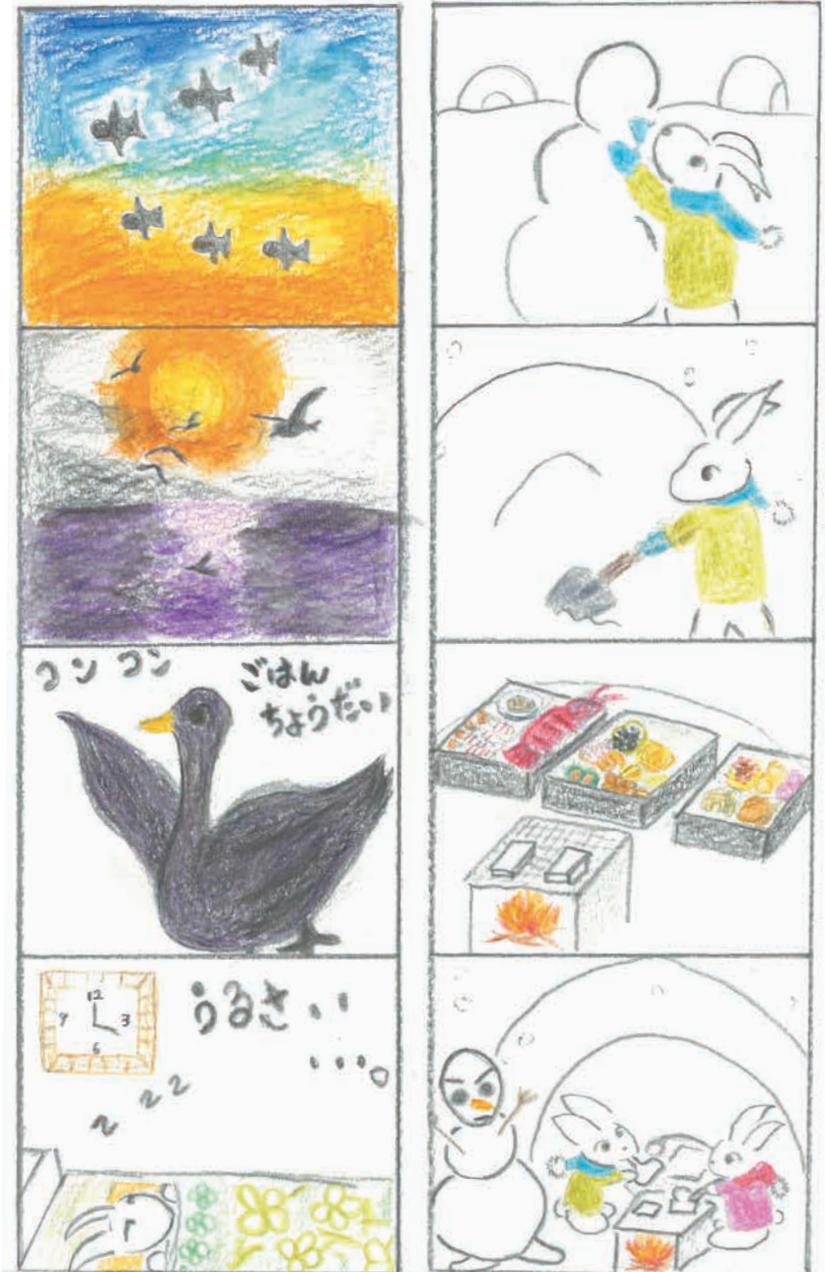
自分の無力差を感じ何度か辞めたいと思つたこともありました。そんな時、入所者の方々の優しい笑顔や言葉に励まされ、そしてスタツフの皆様の沢山の支えを頂きながら、お陰様で退職の日を迎えることが出来ました。本当にありがとうございます。

入所者の皆様、職員の皆様、どうぞこれからも御身体を大切に過ごされますよう心からお祈り申し上げます。

長い間、大変お世話になりました。ありがとうございました。



うさぎの休日



# 各センター協同作品



第1メープルケアセンター  
1F・2F



第2メープル  
ケアセンター・2F



第1メープルケアセンター・3F

